

ARAKI AWARD 荒記賞



■ 第2回受賞者(2015年)

野村茂 熊本大学名誉教授

労働科学研究所客員研究員

受賞タイトル

日本の産業保健史に関する研究

故 野村茂先生 ご経歴

1921 (大正10)年 8月7日生 享年87歳

1946年 満州医科大学卒業

1947年 労働科学研究所職業病研究室

1953年 医学博士

1957年 信州大学

1959年 名古屋大学助教授

1960年 熊本大学教授 (医学部・公衆衛生学)

1966年 文部科学省長期在外研究員 (ピッツバーグ大学)

1987年 定年退官, 労働科学研究所主管研究員

1992年 日本産業衛生学名誉会員

1996年 叙勲 (勲三等旭日中綬章)

主要著書:

要説公衆衛生学 (1973), 職業性皮膚障害とその対策 (1974), 産業医学 (1974), 生活と中毒 (1984), 産業皮膚科学 (1987), 北里柴三郎と緒方正規 (2003), 産業医学 100 話 (2004), 産業医学いまむかし (2008)

分担執筆: 産業中毒総論 (荒記編: 中毒学-基礎・臨床・社会医学, 2002)

受賞:

(水俣病研究班の一人として) 朝日賞 (1967)

労働大臣功労賞 (1982)

受賞理由

独立行政法人労働安全衛生総合研究所の和文学術誌「労働安全衛生研究」, 国際学術誌「Industrial Health」, および「労働安全衛生重点研究推進協議会」の顧問を勤められていた野村茂先生がこの7月6日に逝去されました。享年87歳でした。死因は前立腺がんとのこ

とです。

未だ多くの識者に記憶が新しい最近のご著書「産業医学いまむかし-日本の産業医学の 100 年」を“後世への最大遺物”として、先生が旅立たれたのでした。

ご著書「産業医学いまむかし」は、日本の産業医学 100 年の歴史を、300 余名の国内の専門家の行跡を含めて精確かつ簡明にまとめたあげた力作です。総論にあたる「産業医学 100 年の回顧」は、明治維新後に、国内では新政府の殖産興業政策により、また海外からはイギリスの工場法を始めとする欧米の進んだ法制度と学術を導入することによつて誕生し、また近年は国際レベルにまで到達するに至つた日本の産業医学の発達史を、先生独自の深く鋭い歴史的かつ学術的視点から客観的に論述した総説です。かつて私がロンドン大学の大学院で学び、日本では未だなじみが薄い英米では人口に膾炙しているイギリス産業医学の偉大な 2 人のパイオニアの 1 人で、1898 年に初代の医学(工場)監督官に就任後 30 年間で当時の代表的な職業病であつた鉛中毒の制圧に成功し、今日「レッグの格言」と言われる職業病予防の基本原則を確立したサー・トーマス・モリソン・レッグ(T. M. Legge)の歴史的業績にまで論考が及んでいたのです。この短い論考を一読した時、これぞ日本の産業医学史に残るべき歴史書になると確信したのでした。闘病中の先生のご指名によつて出版時に本書が届いた時のことでした。

一方各論では、明治維新後日本社会が次第に近代化した激動の 20 世紀の産業医学史から精選した、50 の代表的なトピックスと、先人の業績が 2 頁ずつの紙面に重点的に総括されました。時代を切り開いた多くの独創的な論文や書物がそうであるように、わずか 128 頁にすぎない簡易装丁本の本書の価値が理解され、その内容が後世の多くの識者へと引き継がれて行くためには、未だかなりの時間を要するのではないかと推量する次第です。

なお本書では労働安全衛生総合研究所に関しても、全 50 話中の第 34 話「労災病院ができて」、40 話の「産業医学の研究機関」、そして 49 話の「産業安全と産業衛生」と、20 世紀後半の 3 つのトピックスの中で取り上げられています。「産業安全研究所」と「産業医学総合研究所」の誕生と統合、さらに今後 1 年後に予定されている「労働者健康福祉機構」との再統合の背景となる史実など、政府による厳しい独立行政法人改革の渦中で努力して来た研究所の足跡が、歴史的事実として記述されています。

以上、この度の野村茂先生のご逝去にあたり、研究所の学術顧問役として先生が果されたご貢献に対し、前理事長の立場から衷心の謝意を表する機会を与えられたことを嬉しく思います。先生の生涯にわたる産業医学のご経験の中で磨き上げられた、広く正確な専門知識と質の高い判断力に裏付けられた奥深い科学的思考と明快な文章が、社会的実践の学術である労働安全衛生学の今後の発展のため、また学術レベルの高い行政ミッション型の研究機関を目指す研究所の今後の活動に、必ずや寄与し影響し続けることを確信します。

ここに野村茂先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

出典 荒記俊一：野村茂先生追悼文、2009 年 11 月

The Second Award Co-Winner (2015 FY)

Shigeru Nomura MD, DrMSc

Award Title

History of Industrial Health in Japan

Late Visiting Fellow of the Institute of Science of Labor, Late Professor Emeritus of the Kumamoto University, Late Honorary Member of the Japanese Society of Occupational Health

Late Professor Nomura graduated from the Medical College in China in 1946. He started to study occupational diseases at the Institute of the Science of Labor in Tokyo in 1947, receiving the degree of Doctor of Medical Sciences in 1953. Since 1957 he served Associate Professor at the Shinshu University and then at the Nagoya University.

In 1960 he became Professor and Chair of the Department of Public Health of the Faculty of Medicine, the University of Kumamoto in Kyusyu Island, and retired in 1987 at the retirement age of 65 to become Fellow of the Institute of Science of Labor. In 1966 he worked at the Pittsburgh University, USA, as Long-term Overseas Worker of the Japanese Ministry of Education. He received the Asahi Award as a member of Minamata Disease Research Group in 1967.

Professor Nomura founded two prominent research societies, i.e. on occupational history in Japan and on occupational allergy. He published many scientifically standard textbooks on Public health (1973), Occupational skin damage (1974), Industrial medicine (1974), Toxicology in life (1984), Industrial dermatology (1987), Kitazato Shibasaburo and Ogata Masanori (2003), One hundred topics of industrial medicine in Japan (2004), and One hundred-year history of industrial medicine in Japan (2008).

The last two books together with his academic career evidenced receiving the Araki Award this time

Written by Shunichi ARAKI, SMPF President.